

科目名	文化人類学	科目分類	<input type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ)
			<input checked="" type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)
			全学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
			学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Cultural Anthropology	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input checked="" type="checkbox"/> 4年
ふりがな	かまだ ゆきお	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	鎌田 幸男	修得単位	2単位
授業のテーマ	文化人類学とはどのような学問か。その研究方法はどのようにおこなうか。		
到達目標	文化人類学とはどのような学問か、フィールドワークの課題と方法を知る。		
授業概要	文化人類学は、世界の諸民族がもつ文化、社会それに経済、宗教など広範囲にわたる学問である。本講義では、諸民族がもつ伝統的な仮面文化を取り上げる。その過程で男鹿半島に伝わる伝統的なナマハゲ行事に触れる。またこの学問研究に欠かせないものにフィールドワークがある。その課題と方法を考える。さらに仮面文化の根底にある信仰的な要素についても触れる。		
授業計画			
第1回	講義の概要についての説明。文化人類学の世界—どのような学問だろうか		
第2回	日本の文化人類学の歩み—研究の歴史を考える		
第3回	二つの「みんぞく」学—民族学と民俗学 (柳田国男と折口信夫と渋沢敬三) を考える		
第4回	各種仮面文化を事例に、仮面文化に秘められたものとは何かを考える		
第5回	西洋の仮面文化と東洋の仮面文化を比較して考える		
第6回	日本の仮面文化にどのようなものがあるか (歴史と伝来)		
第7回	男鹿半島に伝わるナマハゲ文化について考える (1)		
第8回	ナマハゲとは具体的にどのような文化か、ユネスコの無形文化遺産登録になる (2)		
第9回	その根底にあるもの (本質) は何か (3)		
第10回	ナマハゲの原像は何か (4)		
第11回	フィールドワーク、マリノフスキーの調査から (経済活動) (1)		
第12回	フィールドワークの課題と方法 (2)		
第13回	超自然の世界—アニミズム、シャーマニズムについて考える (1)		
第14回	日本のシャーマニズムについて考える (2)		
第15回	まとめと課題—文化人類学の新しい領域などについて考える		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	① 秋田の仮面文化にどのようなものがあるか関心を持つ。②世界の仮面について調べる。		
履修条件 受講のルール	仮面文化に関心をもつ。「文化人類学入門書」などを読んでほしい。		
テキスト	授業時にプリントを配布する。		
参考文献・資料	『文化人類学入門』中公新書、『文化人類学を学ぶ人のために』世界思想社。		
成績評価の方法	① 定期試験 (60%)、②小テスト実施 (20%)、③レポート (20%)、①②③の総合評価とする。		
オフィスアワー	火曜日 14:40-16:10 *これ以外の場合は事前に連絡すること。		
成績評価基準	秀 (100~90) 優 (89~80) 良 (79~70) 可 (69~60) 不可 (59~60)		
学生への メッセージ	① テレビ番組などで世界の民族の記録などを見る。②秋田の仮面行事に関心を持つ。		